

ぜんち共済社長

榎本 えもと

重秋さん しげあき (59歳)

# 保険が本当に必要な人のために

障害者のための日本唯一の保険会社「ぜんち共済」(東京都千代田区)を18年前に起業した。その髪は今、真っ白だ。起業前から苦難の連続だった。資金不足、1年にも及んだ金融庁と厳しい折衝で疲弊し、駅の

ホームから電車で飛び込もうかと思い詰めた。その苦労で白髪になったのかと思いきや、「若い時から染めていたけど、来年は還暦なので年なりでいいと思って」と豪快に笑う。ぜんち共済はほとんどの保険会社がリス

クが高いと引き受けない知的障害者らとその家族のための個人賠償(対人・対物)、がん保険、入院、死亡、弁護士費用など幅広くカバーしている。

起業のきっかけは、外資系のA I U保険会社(現A I G損害保険)の社員だった時、知的障害者補償制度の担当となり、A I U元社員で「障害者保険の生みの親」とされる保険代理店代表の永田仁司氏と知り合ったこと。当時、知的障害者らが物を壊したり、他人にけがを負わせたりした場合、保護者が自腹で賠償していた。永田氏がA I Uを説得し、1981年に知的障害者を対象にした損害保険の運用が開始され、道が開けた。

その後、独立した永田氏を担当し、障害者の親たちの会などへ一緒に行くようになり、営業ノルマ達成を目指していた仕事観が一変した。「保険が本当に必要な人がいる。役に立ちたい」

A I Uは損保なので、「病気で入院したときの保障がない」と相談を受け、調べたところ、無認可の共済制度で自由に設計できるとわかり、2000年に「全国知的障害者共済会」の立ち上げに奔走した。その後、38歳で脱サラし、共済会の事務局次長を務め、2万人まで会員を増やした。だが、1997年に起こったオレンジ共済事件の影響で、06年に保険業法が施行され、激震が走った。無認可共済は規制対象となるので、共済会を株式会社化し、少額短期保険(保険金が少額で短期の商品)業者として登録されなければ、続けられなくなった。社長を引き受けたものの、地獄の日々がはじまった。

障害者保険の約款は前例がないので、法令など情報を国立国会図書館でかき集め、土日も机にかじりついてひたすら資料を作る。次々と難題が突きつけられ、いつもの笑顔は消えた。「当時、子どもが小さく、邪魔をしてはいけないと妻が実家に連れて帰ったら、僕がうつになっちゃって」と頭をかく。

家族や周囲に支えられ、08年に登録を受けた。契約件数は当初の目標をはるかに超えて今年6万件を突破、年間6千件の保険金(約6億円)を支払う。100年企業に育てるのが夢だ。

文・森下香枝 写真・村上健

◀ 3面に続く

フロントランナー

Front Runner



ぜんち共済社長・榎本重秋さん。かつて通い詰めた国立国会図書館前で＝東京・永田町



# 榎本 重秋さん ぜんち共済社長

——子ども時代は？

高校でやんちゃになった。パ  
ーマかけて友達とバイクに乗っ  
てそのまま、授業さぼって海に  
行ったり(笑)。いまだにこの  
時代の友人とは遊んでます。高  
校3年生になると授業に出なく  
なり、親が呼び出された。母親  
から「息子よ、偉い人にならな  
くとも人に迷惑をかけない人にな  
ってほしい」と手紙で叱ら  
れ、猛省。大学受験するも全  
部、落ちて1浪し、何とか大学  
に受かりました。

——大学時代はバブル期？

はい。外資系のA I Uに就職  
し、最初は丸の内の本社勤務。  
その後、支店などへ配属にな  
り、ノルマに追われる生活にな  
った。夜11時まで仕事してそれ  
から飲みに行き、サウナに泊ま

って翌朝、栄養ドリンクを飲み  
ながら出勤するようなモーレッ  
ツ社員でした。

「助けてもらった」

——転機は27歳の時？

上野支店で障害者保険の生み  
の親の永田仁司さんの担当にな  
りました。永田さんは独立して  
事務所を立ち上げ、僕はその担  
当として一緒に障害者施設など  
を回りました。すると障害者の  
お母さんらが子どもが壊してし  
まった高価な置物などを保険で  
弁償でき、「助けてもらった」  
と感謝する光景を何度も目にし  
ました。

——36歳で結婚され、心境の  
変化は？

大阪支店に転勤し、職場で妻



ぜんち共済のオフィスは役員も社員も横並びで座る。榎本重秋社長が  
立っている場所が自席。東京都千代田区九段北3丁目、森下香枝撮影

## プロフィール

- ★1965年、東京都町田市生まれ。  
市立忠生小学校  
(当時)時代=写  
真=は学級委員を  
務めるなど優等  
生。同中学ではバ  
スケットボール部  
キャプテンになる  
が、都立町田高校に進学後、グ  
レで授業をサボるようになる。  
1浪後、明治大学商学部に進学  
し、テニスサークル会長になり、  
バブル時代の青春を謳歌。
- ★89年にAIU保険会社(現AIG  
損害保険)入社後、知的障害者  
補償制度の担当となる。
- ★2000年、チューリッヒ保険会社  
へ転職。
- ★01年に元同僚だった9歳下の女  
性と結婚。3人の子どもの恵ま  
れる。
- ★04年、38歳で脱サラし、知的障  
害者親の会と一緒に設立した  
「全国知的障害者共済会」のメ  
ンバーとなる。
- ★06年、保険業法改正があり、同  
11月に日本で初めて知的・発達  
障害者などの保険会社「ぜんち  
共済」を起業。社長に就任。08  
年に少額短期保険業登録。今  
年、加入者が6万人を突破。

◆次回は獣医師の服部幸さん。  
猫の幸せと健康をとことん考え、  
2012年に猫専門病院「東京猫医療  
センター」を設立しました。積極  
的に講演活動も行っています。

と出会いました。その後、妻と  
遠距離恋愛になり、何度も大阪  
へ通い、承諾してくれました。  
2000年にはチューリッヒ保  
険会社に転職し、永田事務所に  
いた人と協力して同7月に障害  
者団体のお父さんやお母さんた  
ちと一緒に「全国知的障害者共  
済会」を設立しました。当初は  
会社の仕事と両立して手伝って  
いたのですが、共済会の仕事に  
夢中になり、会社を辞めました。  
——06年に株式会社化し、そ  
こから苦勞の連続でした。  
障害者のための保険をつくる  
という高い理想を掲げても、お  
金がなかなか集まらなかった。  
7500万円の事業資金が必要  
でした。妻や関係者から5千万  
円は自力でかき集めました。が、  
それ以上は厳しかった。株式会  
社を設立した時、30代の元同僚  
女性とその知人の2人が入社  
し、手伝ってくれたが、他の社  
員が集まらなかった。それで大  
手保険会社で保険金支払い、シ  
ステムなどの専門家5人をスカ  
ウトしたが、若手との間に溝が  
できていきました。

——板挟みになった？

はい。若い社員たちは金融庁  
との折衝や資料作りも手伝って  
いてくれたのですが、新たに入  
ってもらった5人はいずれも管  
理職を経験した60代で知識や経  
験は豊富ながら、30代の社員ら  
との世代間ギャップが大きかつ  
た。金融庁に書類を出してもは  
ねられるの繰り返しで、心身と  
もに拒否反応が出るようにな  
り、心療内科でうつ状態と診断  
され、処方された薬でフラフラ  
になりました。

若手がボイコット

——職場の雰囲気は改善した  
のですか？

何とか資金が集まり、少額短  
期保険業の登録ができ、08年か  
ら販売をはじめました。だが、

顧客データの登録などの作業を  
する際、若い社員たちにしわ寄  
せがいき、残業がかさみ、仕事  
をボイコットされた。結局、2  
人は退職しました。「若手で新  
しい会社を作ろう」という僕の  
言葉を信じて、ついて来てくれ  
たのに、本当に申しわけない結  
果になった。社員を大事にでき  
ない会社に未来はないと身をも  
って知りました。

——その後は？

まず、経営者として僕自身が  
変わる努力をしました。

「残業がない会社」を目指  
し、ワークシェアや業務の一部  
を外部委託するなどして社員の  
負担を減らす努力をしました。  
社員に「大切な人」を毎年、書  
いてもらって、その人の誕生日  
に会社からメッセージを添えて  
花を届ける。さらに結婚記念  
日、子どもの卒業式などの記念  
日には休暇を取れるようにし  
た。おかげさまで起業から10年  
を経た17年に「第3回ホワイト  
企業大賞 風通し経営賞」を受  
賞しました。

——今後の目標は？

起業当時、安定経営できる目  
標値として5万人の契約を掲げ  
ていましたが、21年にクリア  
し、今年6万人を突破しまし  
た。でも、厚生労働省による  
と、国内の障害者の総数は、人  
口の9・3%に当たる1164  
万人。うちの契約はほんの一  
部に過ぎません。必要な人にも  
っと届けたい。

——どうやって？

どこの障害者の家庭でも入れ  
るようになると年間保険料は基本、  
1万8千円前後に抑えており、  
大手保険会社みたいに広告宣伝  
費が出せる構造になっていな  
い。福祉団体や親の会などをコ  
ツコツまわり、草の根を広げる  
しかない。そのためにも社員を  
もっと増やしたい。10周年の  
時、17人だった社員は来年には  
33人まで増えます。

——夢は？

障害のある人たちが、自宅の  
近所にある会社に勤め、普通に  
暮らせる社会を作りたい。